

ごみ処理施設維持管理計画書（真庭市クリーンセンターまにわ維持管理基準）

※ピット・クレーン方式により、燃焼設備へ投入するごみを、常時均一に混合する。

○ごみピットは、鉄筋コンクリート造水密コンクリート（外壁防止）とし、日最大処理量の4日分を貯留できるものとし、付属設備として転落防止用手摺、消火設備、点検梯子、深度レベル表示を設ける。また、ピット底部に貯まる汚水は集水溝を設け、ポンプアップにより焼却炉内に噴出する。

○ごみクレーンは、グラブバケット付天井走行クレーンとし、操作は半自動及び遠隔手動方式として巻上げから投入は自動、つかみ、攪拌は手動でごみホッパへの安定供給を行う。また、投入量計量装置により測定結果を炉別に日報、月報集計する。

ホッパ階には、クレーンの点検及び保守管理用のマシーンハッチを設ける。

※主要な燃焼室の出口における炉温を、おおむね摂氏800℃以上に保つ。

○燃焼装置はストーカ式とし、自動燃焼制御装置により、燃焼室の温度等を一定範囲内に保ち安定燃焼を行う。

炉の運転方式は燃し切り運転とし、燃し切り作業は完全自動化とする。起動、停止の燃焼温度の安定化及びCOの排出抑制のため、自動起動、自動停止装置を設置する。

焼却炉本体は、自立形鉄骨構造鋼板囲い密閉式とし、燃焼ガス冷却設備は、「別置型」とする。

燃焼室出口温度は850℃以上を確保し、出口の温度測定は、ごみの発熱量の変動に応じて、燃焼温度が850℃以上で確認できるよう複数カ所で行う。また、ガス滞留時間は、再燃焼温度域で2秒以上とし、炉出口における酸素濃度を6%以上とする。

焼却残渣の熱灼減量は5%以下とする。

※煙突から排出されるガスによる生活環境保全上の支障が生じないようにする。

○燃焼ガスの冷却は水噴射式とし、ろ過集じん器入口において、200℃以下に冷却する。併せて、冷却室出口燃焼ガスCO濃度、燃焼温度の測定設備を設ける。

ろ過集じん器は乾式バグフィルタを使用する。また、有害ガス除去装置を設置し、活性炭、助剤等及びアルカリ剤の併用により、ダイオキシン類、塩化水素、硫黄酸化物を除去する。排ガス濃度は、ばいじん量で0.01g/N m³以下、硫黄酸化物50ppm以下、窒素酸化物150ppm以下、塩化水素100ppm以下、一酸化炭素30ppm以下、ダイオキシン類0.1ng-TEQ/N m³以下とする。

※焼却灰、飛灰の処分

○燃焼装置から排出される焼却灰は灰押出装置を経て、集じん器及び有害ガス除去装置等のダストは飛灰処理装置を経て、それぞれコンベアにより自動的に灰バンカへ移送のうえ、ダストは薬品による処理を行い、埋立判定基準に従って処分する。またダイオキシン類除去装置として、飛灰の加熱脱塩素化処理装置を設ける。